

# 資源・素材に関わる産業界の 現状と課題 —— 産業界から学界への発信

## MMIJ Annual Meeting 2007

春季大会の新しい試みとして、平成19年度(2007年)春季大会において、企業から学界への発信を目的としたセッション、【資源・素材に関わる産業界の現状と課題～産業界から学界への発信】を開催いたします。

このセッションは、企業から産業界の現状や将来、解決すべき技術課題などを報告していただき、産学官共同で課題の解決やプロセスの革新につなげること、また、企業のかかえる課題に共通する科学を抽出して、大学や研究機関での基礎研究への展開や知識の体系化に発展させることを目指しています。

大学、公的機関の研究者の皆様を含む多くの方のご出席、活発な議論を実現するために、このセッション開催時間帯は、他のセッションを開催しないプログラム編成としました。また、このセッションはオープン企画で、大会参加登録者以外の皆様も自由に聴講できますので、お誘い合わせの上、多数ご来場くださいますようお願いいたします。

**開催日：3月30日(金) 12:55~17:30**

**会場：早稲田大学大久保キャンパス理工学部57号館**

### セッションプログラム：

- 12:55~13:00 本セッションのねらいについて 大会実行委員長 不破 章雄
- 13:00~14:00 基調講演「我が国における非鉄金属資源の確保のための戦略」  
(経済産業省鉱物資源課 課長 朝日 弘)
- 14:00~14:40 「海外における資源開発」 (日鉱金属 執行役員・チリ事務所長 後藤 敬一)  
良質な鉱石の長期安定的な確保のために、海外の資源開発に積極的に参加している企業から、これからの海外での資源開発をどう考えるか、また海外における資源開発において我が国が抱える課題についてご報告いただきます。
- 14:40~15:20 「鉱山開発と操業の現状と課題—アタカムコーザンを例として」  
(日鉄鉱業 取締役・鳥形山鉱業所長 宮崎信秀)  
国内外で種々の鉱山開発、操業を行っている立場から、資源確保の原点である鉱山運営の根幹をなす鉱山開発、岩盤技術、採鉱技術を中心に、その現状と戦略、技術課題、および鉱山運営に必要な資源技術者の育成について述べていただきます。
- 15:20~15:30 休憩 —
- 15:30~16:10 「湿式製錬技術の展開とこれからの課題」  
(住友金属鉱山 常務執行役員・金属事業本部長 家守伸正)  
新しいニッケル製錬プロセスや銅精鉱の湿式製錬プロセスの開発など、最近の湿式製錬技術の展開を紹介し、今後の課題について述べていただきます。
- 16:10~16:50 「環境・リサイクル事業として鉱山・製錬業が果たすべき役割」  
(DOWエコシステム ジオテック事業部 浄化統括部長 白鳥 寿一)  
複雑な製錬事業を通じて培った、優れた分離技術を活かして、リサイクル原料からの有価金属の回収、環境負荷物質の回収や無害化、廃棄物の減容や再資源化、土壌浄化などの環境事業を積極的に進めてきた企業より、その現状と今後の課題をご報告いただきます。
- 16:50~17:30 「電子・機能性材料の開発とそれらに用いられる金属資源の確保」  
(三井金属 執行役員・総合研究所長 千崎 博久)  
非鉄金属分野で蓄積した技術力を展開し、パソコン、携帯電話、液晶テレビといった製品に不可欠な電子・機能性材料を数多く開発、供給してきた企業から、その開発経緯と現状、およびそれらの材料に用いられる希少金属の資源の確保や3R技術、材料開発における課題について述べていただきます。